

第65期 中間株主通信

平成18年6月1日～平成18年11月30日

C × TOYO TANSO = ∞

TOYO
Ⓚ 東洋炭素株式会社

C

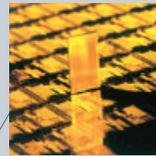
東洋炭素グループは、 カーボンの可能性を追求し 世界に貢献します。

元素記号C、原子番号6、カーボン（炭素）。最も古くから知られる元素のひとつが、最も新しい素材として注目される理由は、その優れた特性にあります。私たち東洋炭素は、無限の可能性を秘めたカーボンに魅せられ、飽くなき挑戦を続けてきました。いまや身近な生活空間から原子力・宇宙航空などの先端分野まで、様々な領域で東洋炭素の画期的なカーボン製品が活用されています。

しかしながらカーボンのチカラはまだこんなものではありません。もっと先へ、もっと未来へ。私たちの挑戦は続きます。

先端領域

黒鉛は、耐放射線性やプラズマ特性を活かして核融合炉の部材に、またロケットモーターの心臓部でも使用されています。また最先端分野でも大いに活躍しています。さらに未来の炭素材料としては、超伝導材料・超硬材料への応用が考えられるフラーレン、半導体デバイス材料・電池材料としてのカーボンナノチューブに注目が集まっています。これらの素材がもつ特性は医薬品製造等様々な用途への活用が期待されています。



エレクトロニクス領域

半導体や太陽電池の製造には欠かせない黒鉛。高耐熱性を活かした、ウエハーを製造するシリコン単結晶引き上げ装置用炉やヒーターの部材、また不純物を嫌う化合物半導体関連部品の製造やウエハーの保護膜形成にも、耐薬品性等の黒鉛の様々な特性が活かされています。

輸送機器領域

銅合金を含ませたカーボンは、高強度・低抵抗の特性を有します。その性質を利用しているのが電車のパンタグラフです。集電性も高く最適な素材といえます。また、自動車のモーターや各種部品にもカーボンは幅広く使用されており、非常に身近なところで活躍しています。



カーボンへの期待が
新しい製品と用途を生み出します

電気領域

耐摩耗性・整流性に富む黒鉛は、産業機械用モーターから掃除機や電動工具などの家庭用モーターまで、その重要な部品の一つであるブラシにカーボンが使用されています。また携帯電話やノートパソコン等に使われているリチウムイオン2次電池の負極材も黒鉛です。



一般産業機械領域

自己潤滑性や耐薬品性、耐熱性など、劣化しにくい特性により、黒鉛は各種機械のコンプレッサーやタービンなどに使用されるピストンリング・パッキン等の部品、連続鑄造用の鑄型、金属の放電加工用電極としても活用されています。

今こそ原点に立ち返り 飽くなき挑戦と大いなる飛躍を図る

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。第65期中間期の業績をご報告するにあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。

当中間期の業績につきましては、主力製品である等方性黒鉛に対する旺盛な需要を背景として、積極的な拡販と高付加価値化の推進を図るとともに、徹底した生産性改善によるコストダウンなどにより、売上高ならびに各利益とも前年同期に比べ大幅な増額となりました。下半期につきましても、各製品分野とも引き続き活発な需要に支えられ、堅調に推移するものと見込んでおります。

またこの下半期におきましては、かねてより準備を進めておりました等方性黒鉛の増産（年産8,000トンから11,000トン体制までの第一段階として10,000トン体制への引き上げ）が順次実現する予定であり、さらなる事業拡大に向けて注力する所存です。

私たち東洋炭素グループは、創業以来「どこにもないモノをつくろう」との基本理念のもと、カーボンのパイオニアとしてその無限の可能性の追求に全力を挙げて挑戦し、独創的かつ画期的な技術と製品を産み続けてきました。この精神と挑戦の歴史こそが私たちの原点であり誇りです。私たちは、株主の皆様のご支援を受けて昨春晴れて上場を果し、さらに一段の成長を目指して順調にスタートを切っておりますが、このパイオニア精神は今も、そしてこれからも変わることはありません。新たなステージに立った今こそもう一度創業以来の原点に立ち返り、さらなる飛躍を目指して、常に謙虚にそして大胆に、飽くなき挑戦と前進を続けてまいり所存です。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のお引き立てを賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



代表取締役社長
近藤 照久

2007年2月

随所に独自の技術が光る 等方性黒鉛製品の製造工程。

原料
粉碎
成形

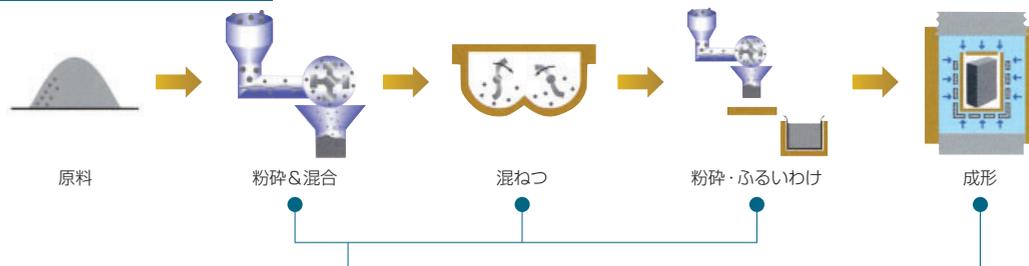
厳選された原料、業界に先駆けて導入した静水圧成形法が
厳しい品質管理を経て「等方性」の特性を生み出す。



生産本部
素材製造部次長
土居 暁

東洋炭素の各工場では、それぞれが優れた設備と技術を集約し、独自の生産ラインを確立しています。主力の詫間事業所は、1985年に操業開始、敷地面積は約5万6千坪（東京ドームの約4倍）あり、当社の技術を結集した、世界最大規模の等方性黒鉛製造ラインを持っています。では、これから詫間事業所における等方性黒鉛の製造工程をご案内いたします。陶器などの焼き物を作る過程によく似ていますので、それを想像しながらご覧いただければわかりやすいと思います。

原料粉碎から成形まで



まず、屋外のサイロに貯蔵した原料（コークス）を、数ミクロン～数10ミクロンの大きさに粉碎します。



粉碎・混合ライン

次に、バインダーと呼ばれる結合材を加え、加熱しながら混ぜ合わせます。一度石ころ状になりますので、再び粉碎し、さらにふるい分けをおこなって粉体にします。

粉体はゴム製の容器に詰め、さらに金型に取めた後、水の中で均等に圧力をかけてブロックを成形します。これを「静水圧成形法」といい、東洋炭素が業界に先駆けて導入し等方性黒鉛の開発を成功させる要因となった成形法で



静水圧成形

す。約1,000気圧（水深1万メートルの海底と同じ）というものすごい水圧を四方八方から均等にかけると、粒子が均等に並び、その結果、黒鉛のもととなる結晶粒子がランダムに並んだ成形ブロックが出来上がります。この成形方法によって、ブロックはどの方向からも等しい性質、即ち「等方性」を持つことができるのです。

等方性黒鉛製品の製造工程は大きく3段階に分かれます。原料粉碎～成形、焼成～黒鉛化、製品加工の各工程には等方性黒鉛の特性を熟知した東洋炭素ならではの技術が活かされています。当社独自の製造技術は、業界のリーディングカンパニーとしてのポジションを確立する上で大きな要因となっています。

原料
粉碎
成形

焼成
黒鉛化

製品
加工

焼成
黒鉛化

高度なノウハウによる高温処理で結晶化度を高め、「等方性黒鉛」のブロックが完成する。

成形したブロックは、約1,000℃の熱を加えて炭素化します。これを焼成工程と呼びますが、炉に詰めてから出すまで通常の製品で約1ヵ月、大きい製品では約2ヵ月を要します。このように時間をかけるのは、急激な温度の変化だと割れてしまうからです。焼成工程は、炉の中の温度分布や熱の上げ下げ速度など、様々なノウハウが必要となる難しい工程の一つです。



焼成炉

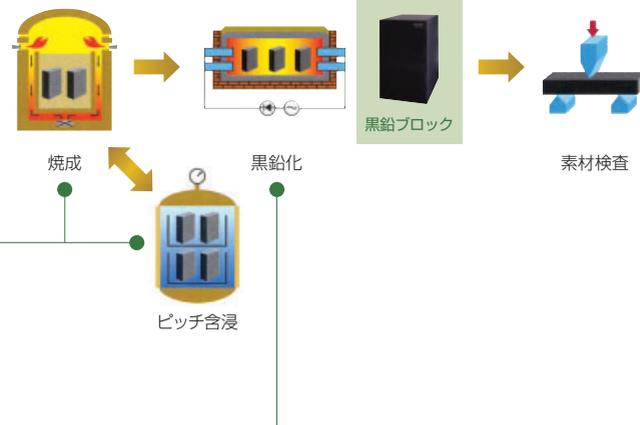
焼成棟

材質によっては密度を高めるために、ピッチを含浸させて再び焼成するものもあります。焼成工程では生産技術の高度化にも注力しました。温度管理、搬入・搬出などコンピュータを駆使した自動化で、何10基もの炉を数名でカバーできる生産体制を実現しています。



ピッチ含浸装置

焼成から黒鉛化まで



黒鉛化炉

焼成工程を経た後、ブロックを約3,000℃の高温で熱処理をします。これを黒鉛化工程といいます。ここでは、外から熱を加えるのではなく、ブロックを詰めた炉の両端から大電流を流し、ブロックはその抵抗熱によって約3,000℃まで加熱されます。高温熱処理でブロックの結晶構造は発達し、黒鉛独特の潤滑性を持つようになります。さらに電気や熱の伝導性も向上し、等方性黒鉛ブロックが出来上がります。この工程は約2ヵ月を要します。このように、長いものでは半年の期間をかけて等方性黒鉛のブロックが製造されるのです。

品工
加工

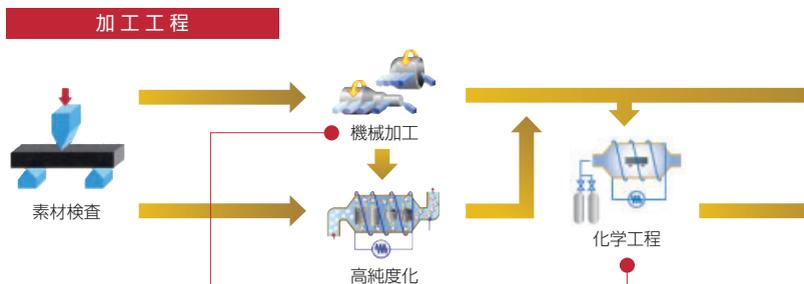
等方性黒鉛の市場を無限に拡げていく
微細加工、高純度化、複合化等の高度な加工技術。

等方性黒鉛ブロックは、お客様のニーズや用途によって、様々な製品に加工されます。東洋炭素は、素材を単に製造するだけでなく、このように最終製品まで自社で加工することによって、お客様のニーズにえています。

託問事業所では、旋盤、マシニングセンターなどの最新鋭機による機械加工をはじめ、高純度化、化学処理など、お客様のニーズに対応した様々な加工設備を取り揃えています。それでは、加工段階の工程のいくつかをご覧くださいませ。



機械加工ライン



旋盤、マシニングセンター等によって切削し、製品を形作ります。基本的には金属加工と変わりませんが、不純物を嫌うため、湿式加工はおこないません。もっとも、黒鉛は切削抵抗が少なく、熱伝導が良いので、むしろその必要がないといえるでしょう。



マシニングセンター

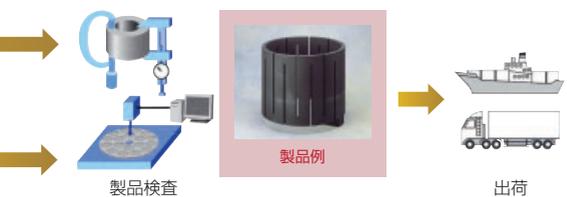
耐酸性、耐薬品性、表面硬度の向上がより厳しく求められる製品には、SiC(炭化ケイ素)、熱分解炭素、ガラス状炭素などの被膜を表面に生成し、複合化をおこなっています。

半導体用など、高い純度が求められる製品は、高温でハロゲン系のガスと反応させることで含まれている金属などの不純物を除きます。5ppm以下という超高純度を表現しています。





当期増設
 託問事業所



高度な品質を要求される等方性黒鉛製品は、あらゆる工程で厳しい品質管理が求められます。素材製造においては、原料受入、粉碎、混ねつなどの



3次元測定機による検査

各工程で特性検査をおこない、黒鉛化後は材料特性検査、加工後は3次元測定機などを使ったシビアな加工精度検査など、あらゆるプロセスで、徹底した品質管理や検査を実施しています。

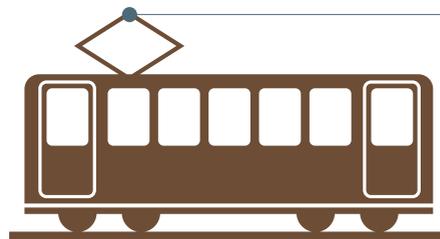
○ COLUMN

シリーズ

ファインカーボンはこちらに！

電車編

カーボンというと一般には馴染みがないかもしれませんが、その優れた特性からカーボンは身近な生活空間から原子力・宇宙航空などの最先端分野まで様々な領域で活躍しています。今回はごく身近な電車に使われているカーボン製品についてご紹介します。



パンタグラフ用すり板

「パンタグラフ」をご存知でしょうか。電車の屋根に付いている電車を動かすための電力を取り込むアンテナ、それがパンタグラフです。そのパンタグラフの上部に取り付けられるスライダー（すり板）に当社のカーボンが使用されています。従来主流であった金属ではスパークが発生することで電波障害、架線磨耗などの問題が生じていましたが、カーボンを使用することにより、その優れた自己潤滑性・導電性などの特性が活かされ、これらの問題が解消されました。現在、主要な鉄道路線を走る多くの車両で当社のカーボンスライダーがパンタグラフに使用されています。一度、電車の屋根の上を見上げてみてください。



平成19年5月期 中間業績概要

当中間連結会計期間の日本経済は、原油等の原燃料価格の高騰の影響はありましたが、好調な企業収益を背景に設備投資が高水準であったほか、個人消費も堅調に推移するなど、景気は穏やかながら拡大基調で推移いたしました。また海外経済についても、総じて堅調に推移いたしました。

このような状況のなか、当企業グループは特に主力製品である等方性黒鉛製品において旺盛な需要を積極的に取り込むとともに、高品質・高性能製品の開発と新規用途開拓ならびに高付加価値・成長分野へのシフトを引き続き推進いたしました。加えて、徹底した生産性改善によるコスト低減ならびにアウトプット増の実現と、高付加価値化による販売単価の上昇が営業努力と相まって、更なる収益の向上に努めました。

(単位：百万円)

| | 当中間期 (平成18年6月1日から 平成18年11月30日まで) | ご参考 | |
|-------|--|--|-----------------|
| | | 前中間期 (平成17年6月1日から 平成17年11月30日まで) | 対前年同期増減率 (%) |
| 売上高 | 14,866 | 12,227 | 21.6 |
| 営業利益 | 3,286 | 2,081 | 57.9 |
| 経常利益 | 3,369 | 2,280 | 47.7 |
| 中間純利益 | 2,014 | 1,230 | 63.8 |

製品別概況

特殊黒鉛製品

エレクトロニクス分野

- 単結晶シリコン製造用途：300mmウエハ製造装置向けを中心として引き続き需要が伸長
- 太陽電池製造用途：世界的な環境意識の高まりを背景に需要が急拡大

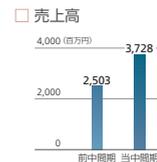
一般産業分野

- 金型製造用の放電加工電極が国内外で伸長
- 冶金関連需要・液晶関連需要が増加



複合材その他製品

- SiCコーティング黒鉛製品：化合物半導体向けを中心に需要が増加
- C/Cコンポジット製品：半導体、太陽電池関連市場の伸長などにより堅調に推移
- 黒鉛シート製品：半導体、液晶関連を中心に需要が拡大
- オンサイトフッ素発生装置：一般産業分野向けに大型スポット案件の納入を実現



一般カーボン製品

機械用カーボン分野

- 一般産業機械用途：底堅い設備投資を背景に需要が増加、エコ対応給湯器関連需要も伸長
- パンタグラフ用すり板：既存顧客の更新需要ならびに私鉄・新交通への参入等により順調に拡大



電気用カーボン分野

- 家電モーター用小型カーボンブラシ：顧客の中国生産シフト進展するも、中国において増加した需要の積極的取り込みや電動工具向けの拡販などによりカバー



幕張でのセミコン・ジャパン2006に出展

当社は、昨年12月6日から12月8日の3日間、幕張メッセで開催された「SEMICON JAPAN (セミコン・ジャパン) 2006」に出展し、東洋炭素ブランドを強くPRいたしました。

「SEMICON JAPAN2006」は、半導体関連としては世界最大規模を誇る展示会として、毎年12月に幕張メッセで開催されています。今回は特に30周年記念展示会として、出展社数1,495社、総来場者数109,800人という数多くの参加者を得て、盛況のうちにその幕を閉じました。



当社からは特に「半導体」「液晶」「太陽電池」の3分野に向けた製品を展示し、新規用途開拓での潜在需要家の掘り起こし、既存製品での新規顧客開拓、装置メーカーの研究部門との接触などを目的として、当社製品および技術の独自性をアピールいたしました。展示期間中は国内外の多数の来場者を当社ブースに迎え、成功裡のうちに終了することができました。今後も様々な展示会等において、当社ブランドおよび製品を広くお客様に伝え、さらなる企業イメージの向上を図るよう取り組んでまいります。

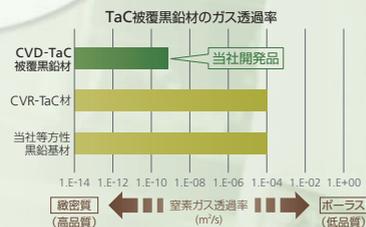
次世代半導体製造の部材 TaC (炭化タンタル) 被覆黒鉛材を開発

当社は、従来より開発を進めていた化学気相蒸着法 (CVD) によるTaC被覆黒鉛材の開発に成功し、市場展開に向け本格的ワークを開始しました。本製品は転化法 (CVR) に比べて高温下での安定性に優れているとともに、ガス不浸透性の飛躍的な向上を実現し、特に次世代半導体の最有力候補である単結晶SiC (炭化ケイ素) 製造装置の有力部材として期待されます。

単結晶SiCは、小型・低消費電力・高効率を実現できることから、高周波パワーデバイスをはじめとするハイパワー用途やハイブリッド自動車用などの

半導体として注目されています。その品質向上および生産性の向上に、今回当社が開発したCVD-TaC被覆黒鉛材は大きく寄与することが解っており、単結晶SiCの本格的立ち上げも早まるのではと期待しています。

今後は、量産化も含めて大型CVD-TaC被覆黒鉛材の早期立ち上げを目指す予定です。



中間連結貸借対照表の要旨

(単位：千円)

| 科 目 | 当中間期末 (平成18年11月30日現在) | 前期末 (平成18年5月31日現在) |
|--------------|--------------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 26,914,805 | 26,443,455 |
| 固定資産 | 21,250,584 | 18,669,266 |
| 有形固定資産 | 18,299,294 | 15,804,019 |
| 無形固定資産 | 271,325 | 259,072 |
| 投資その他の資産 | 2,679,964 | 2,606,174 |
| 資産合計 | 48,165,389 | 45,112,721 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 11,727,674 | 9,993,413 |
| 固定負債 | 3,026,346 | 3,941,627 |
| 負債合計 | 14,754,021 | 13,935,041 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 32,931,653 | 31,057,077 |
| 評価・換算差額等 | 127,180 | △ 196,716 |
| 少数株主持分 | 352,535 | 317,319 |
| 純資産合計 | 33,411,368 | 31,177,680 |
| 負債・純資産合計 | 48,165,389 | 45,112,721 |

中間連結損益計算書の要旨

(単位：千円)

| 科 目 | 当中間期 (平成18年6月1日から 平成18年11月30日まで) | 前中間期 (平成17年6月1日から 平成17年11月30日まで) |
|--------------|--|--|
| 売上高 | 14,866,821 | 12,227,963 |
| 売上原価 | 8,980,224 | 7,894,356 |
| 売上総利益 | 5,886,597 | 4,333,606 |
| 販売費及び一般管理費 | 2,599,716 | 2,252,289 |
| 営業利益 | 3,286,880 | 2,081,317 |
| 営業外収益 | 193,200 | 275,273 |
| 営業外費用 | 110,988 | 76,204 |
| 経常利益 | 3,369,092 | 2,280,385 |
| 特別利益 | 409,581 | 14,850 |
| 特別損失 | 22,814 | 22,199 |
| 税金等調整前中間純利益 | 3,755,860 | 2,273,037 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,412,540 | 1,101,662 |
| 法人税等調整額 | 286,475 | △ 89,874 |
| 少数株主利益 | 42,176 | 31,153 |
| 中間純利益 | 2,014,667 | 1,230,097 |

中間連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (単位：千円)

| 科 目 | 当中間期 | 前中間期 |
|----------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| | (平成18年6月1日から 平成18年11月30日まで) | (平成17年6月1日から 平成17年11月30日まで) |
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 2,485,177 | 1,110,630 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △ 2,147,452 | △ 1,540,745 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | △ 1,078,600 | 441,021 |
| 現金及び現金同等物に 係る換算差額 | 17,130 | 82,789 |
| 現金及び現金同等物の 増加額 (△減少額) | △ 723,744 | 93,696 |
| 現金及び現金同等物の 期首残高 | 4,867,225 | 2,031,692 |
| 新規連結子会社の現金及び 現金同等物の期首残高 | — | 220,726 |
| 現金及び現金同等物の 中間期末残高 | 4,143,480 | 2,346,115 |

POINT ① 資産

売上高の増加にともなう受取手形および売掛金726百万円の増加、および等方性黒鉛材料製造設備の増設等にともなう有形固定資産2,495百万円の増加等により、資産合計は3,052百万円の増加。

POINT ② 負債・純資産

等方性黒鉛材料製造設備の増設等にともなう未払金1,088百万円の増加および設備関係支払手形607百万円の増加の一方、借入金881百万円の減少等により、負債合計は818百万円の増加。
中間純利益2,014百万円等により、純資産合計は2,233百万円の増加。

POINT ③ 損益

高品質、高機能製品の開発と新規用途開拓ならびに高付加価値、高成長分野へのシフトを引き続き推進するとともに、徹底した生産性改善によるコスト低減ならびにアウトプット増の実現と、高付加価値化による販売単価の上昇が営業努力と相まって、さらなる収益の向上に努めたことにより、売上高2,638百万円の増加、営業利益1,205百万円の増加、経常利益1,088百万円の増加、中間純利益は784百万円の増加。

POINT ④ 中間連結株主資本等変動計算書

中間純利益2,014百万円等により、純資産合計は2,233百万円の増加。

中間連結株主資本等変動計算書の要旨 (平成18年6月1日から平成18年11月30日まで)

(単位：千円)

| | 株主資本 | 評価・換算差額等 | 少数株主持分 | 純資産合計 |
|------------------------------|------------|-----------|---------|------------|
| 平成18年5月31日 残高 | 31,057,077 | △ 196,716 | 317,319 | 31,177,680 |
| 中間連結会計期間中の変動額 | | | | |
| 剰余金の配当 | △ 133,265 | | | △ 133,265 |
| 利益処分による従業員賞与 | △ 6,826 | | | △ 6,826 |
| 中間純利益 | 2,014,667 | | | 2,014,667 |
| 株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額 (純額) | | 323,896 | 35,216 | 359,112 |
| 中間連結会計期間中の変動額合計 | 1,874,575 | 323,896 | 35,216 | 2,233,688 |
| 平成18年11月30日 残高 | 32,931,653 | 127,180 | 352,535 | 33,411,368 |

中間貸借対照表の要旨

(単位：千円)

| 科 目 | 当中間期末 | 前期末 |
|--------------|-----------------|----------------|
| | (平成18年11月30日現在) | (平成18年5月31日現在) |
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 21,811,051 | 22,459,490 |
| 固定資産 | 19,421,353 | 16,842,288 |
| 有形固定資産 | 13,751,720 | 11,434,496 |
| 無形固定資産 | 83,298 | 71,611 |
| 投資その他の資産 | 5,586,334 | 5,336,180 |
| 資産合計 | 41,232,405 | 39,301,778 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 9,626,732 | 8,323,035 |
| 固定負債 | 1,575,159 | 2,478,367 |
| 負債合計 | 11,201,891 | 10,801,402 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 30,004,985 | 28,468,545 |
| 評価・換算差額等 | 25,528 | 31,830 |
| 純資産合計 | 30,030,513 | 28,500,376 |
| 負債・純資産合計 | 41,232,405 | 39,301,778 |

中間損益計算書の要旨

(単位：千円)

| 科 目 | 当中間期 | 前中間期 |
|--------------|--------------------------------|--------------------------------|
| | (平成18年6月1日から 平成18年11月30日まで) | (平成17年6月1日から 平成17年11月30日まで) |
| 売上高 | 11,502,273 | 9,783,119 |
| 売上原価 | 7,357,089 | 6,604,331 |
| 売上総利益 | 4,145,184 | 3,178,788 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,667,662 | 1,533,420 |
| 営業利益 | 2,477,521 | 1,645,367 |
| 営業外収益 | 199,259 | 301,295 |
| 営業外費用 | 65,649 | 28,809 |
| 経常利益 | 2,611,131 | 1,917,853 |
| 特別利益 | 408,487 | 739 |
| 特別損失 | 15,949 | 12,550 |
| 税引前中間純利益 | 3,003,669 | 1,906,043 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,196,000 | 905,000 |
| 法人税等調整額 | 137,963 | △ 27,926 |
| 中間純利益 | 1,669,706 | 1,028,970 |

中間株主資本等変動計算書の要旨

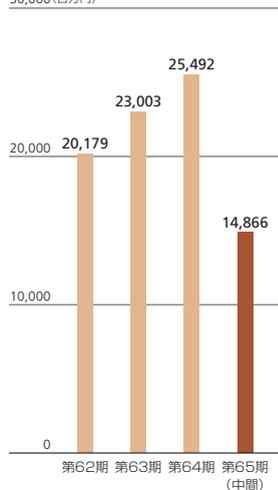
(平成18年6月1日から平成18年11月30日まで)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | 株主資本 合計 | 評価・換算 差額等 | 純資産 合計 |
|--------------------------------|-----------|-----------|------------|---------|------------|--------------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | | | |
| 平成18年5月31日 残高 | 5,000,075 | 6,842,786 | 16,634,888 | △ 9,205 | 28,468,545 | 31,830 | 28,500,376 |
| 中間会計期間中の変動額 | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △ 133,265 | | △ 133,265 | | △ 133,265 |
| 中間純利益 | | | 1,669,706 | | 1,669,706 | | 1,669,706 |
| 株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額 (純額) | | | | | | △ 6,302 | △ 6,302 |
| 中間会計期間中の変動額合計 | — | — | 1,536,440 | — | 1,536,440 | △ 6,302 | 1,530,137 |
| 平成18年11月30日 残高 | 5,000,075 | 6,842,786 | 18,171,329 | △ 9,205 | 30,004,985 | 25,528 | 30,030,513 |

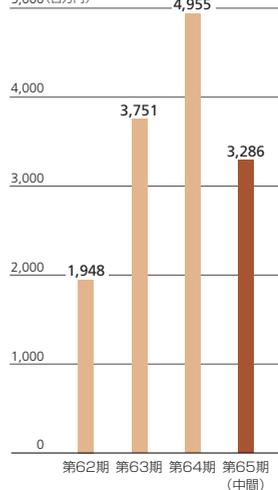
売上高

30,000 (百万円)



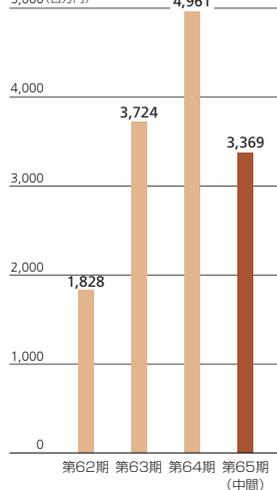
営業利益

5,000 (百万円)



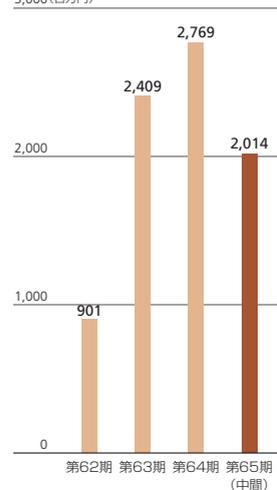
経常利益

5,000 (百万円)



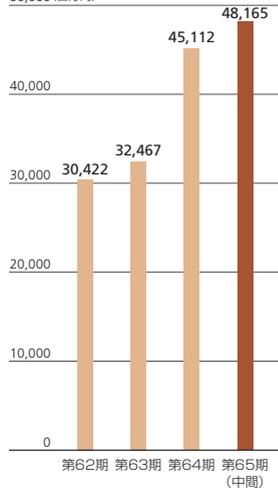
中間(当期)純利益

3,000 (百万円)



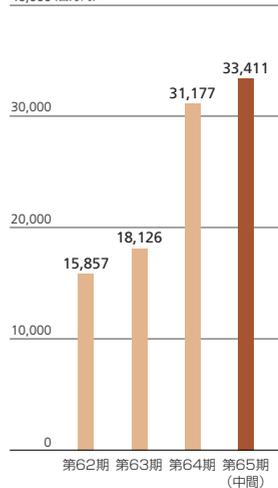
総資産

50,000 (百万円)



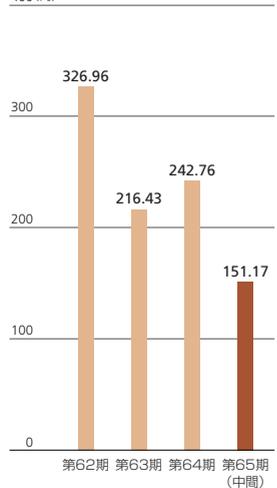
純資産

40,000 (百万円)



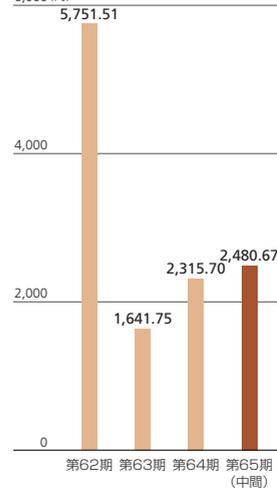
1株当たり中間(当期)純利益

400 (円)



1株当たり純資産

6,000 (円)



事業拠点

(平成18年11月30日現在)

■ 国内事業所

本社・大阪営業所・海外営業部・FC事業部

〒555-0011 大阪市西淀川区竹島5-7-12

東京営業所

〒103-0027 東京都中央区日本橋1-2-19 (日本橋ファーストビル)

東北営業所

〒981-3133 仙台市泉区泉中央3-16-1 (ケーツービル)

つくば営業所

〒300-3261 茨城県つくば市花畑2-15-8

北陸営業所

〒939-8074 富山県富山市大町南台48-7

静岡営業所

〒426-0201 静岡県藤枝市下藪田80-13

名古屋営業所

〒460-0003 名古屋市中区錦1-3-7 (SK名古屋ビル)

広島営業所

〒732-0045 広島市東区曙4-4-25

四国営業所

〒769-1612 香川県観音寺市大野原町中姫2181-2

九州営業所

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2-9-11 (山善ビル)

大野原技術開発センター

〒769-1612 香川県観音寺市大野原町中姫2181-2

詫間事業所

〒769-1102 香川県三豊市詫間町松崎2791

萩原工場

〒769-1614 香川県観音寺市大野原町萩原850-1

いわき工場

〒970-1144 福島県いわき市好間工業団地1-31

■ 国内関係会社

東炭化工株式会社

〒769-0401 香川県三豊市財田町財田上1335-22

大和田カーボン工業株式会社

〒561-0821 大阪府豊中市日出町2-1-16

■ 海外主要関係会社

TOYO TANSO USA, INC. (アメリカ)

TOYO TANSO EUROPE S.P.A. (イタリア)

GRAPHITES TECHNOLOGIE ET INDUSTRIE S.A. (フランス)

GTD GRAPHIT TECHNOLOGIE GMBH (ドイツ)

SHANGHAI TOYO TANSO CO., LTD. (中国)

SHANGHAI TOYO TANSO INDUSTRIAL CO., LTD. (中国)

TOYO TANSO TAIWAN CO., LTD. (台湾)



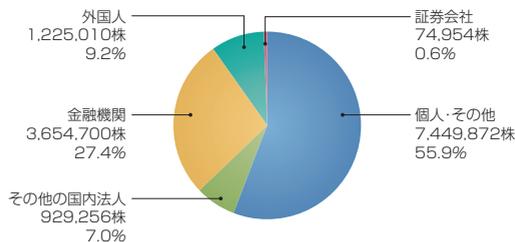
株式の状況

(平成18年11月30日現在)

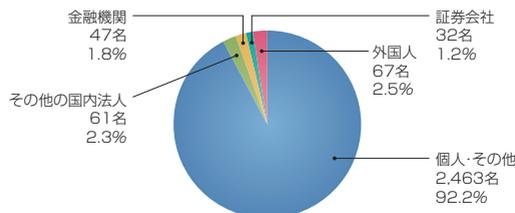
| | |
|------------|-------------|
| ■ 発行済株式の総数 | 13,333,792株 |
| ■ 単元株式数 | 100株 |
| ■ 株主数 | 2,670名 |
| ■ 大株主 | |

| 株主名 | 持株数(千株) | 出資比率(%) |
|-------------------------|---------|---------|
| 近藤 照久 | 1,969 | 14.76 |
| 近藤 純子 | 1,911 | 14.33 |
| 日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託) | 1,138 | 8.53 |
| 近藤 朋子 | 1,065 | 7.99 |
| 日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託) | 957 | 7.18 |
| 近藤 尚孝 | 834 | 6.25 |
| 財団法人近藤育英会 | 556 | 4.16 |
| 近藤 孝子 | 355 | 2.66 |
| カセバ バックセリング クライアント アカウト | 242 | 1.81 |
| 株式会社みずほ銀行 | 240 | 1.79 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 240 | 1.79 |
| 株式会社百十四銀行 | 224 | 1.67 |

■ 所有株式数別株主分布状況



■ 所有者数別株式分布状況



会社概要

(平成18年11月30日現在)

| | |
|--------|------------------------------|
| ■ 設立 | 昭和22年7月31日 |
| ■ 本社 | 〒555-0011 大阪市西淀川区竹島5-7-12 |
| ■ 資本金 | 5,000,075,648円 |
| ■ 従業員数 | 809名(単体) 1,614名(連結) |

役員

(平成18年11月30日現在)

| | |
|---------------------|-------|
| ■ 取締役社長 (代表取締役) | 近藤 照久 |
| ■ 取締役副社長 (代表取締役) | 近藤 純子 |
| ■ 専務取締役 | 近藤 尚孝 |
| ■ 取締役 | 平賀 俊作 |
| ■ 取締役 | 栗本 忠弘 |
| ■ 取締役 | 澤村 文雄 |
| ■ 取締役 | 東城 哲朗 |
| ■ 常勤監査役 | 加藤 澄雄 |
| ■ 監査役 | 福井 進吾 |
| ■ 監査役 | 江戸 忠一 |
| ■ 監査役 | 田辺 陽一 |

(注) 監査役 福井進吾氏、江戸忠氏および田辺陽一氏は社外監査役であります。

■ ホームページのご案内

当社はホームページにおきましても最新のトピックスをはじめとして、業務報告や会社情報などさまざまな情報をご案内しております。



<http://www.toyotanso.co.jp>

株主メモ

| | |
|----------------------|--|
| 事業年度 | 毎年6月1日から翌年5月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年8月 |
| 基準日 | |
| 定時株主総会 | 毎年5月31日 |
| 期末配当 | 毎年5月31日 |
| 中間配当 | 毎年11月30日 |
| 公告方法 | 当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 |
| 電子公告掲載 ホームページアドレス | http://www.toyotanso.co.jp |
| 株主名簿管理人 | 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 |
| 同事務取扱場所 | 大阪市中央区北浜二丁目2番21号 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店 |
| 郵便物送付先 | 〒168-0063 |
| 電話お問い合わせ先 | 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 (証券代行事務センター) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) |
| 上場証券取引市場 | 東京証券取引所市場第一部 |
| 証券コード | 5310 |



<http://www.toyotanso.co.jp>